# 追悼　吉野諒三 先生

日本世論調査協会 研究大会

鈴木 督久

日本世論調査協会会長

2025年１月17日

# 略歴

2022年　日本世論調査協会 (会長)
2019年　同志社大学, 文化情報学部, 特別客員教授
2016年　情報・システム研究機構, データサイエンス共同利用基盤施設・社会データ構造化センター長
1999年　総合大学院大学,助教授～教授～名誉教授
1991年　ドイツ・ケルン・セントラルアーカイヴ
1989年　統計数理研究所

1988年　University of California, Irvine,, School of Social Sciences,, Cognitive Science Group
1980年　東京大学, 文学部,心理学科
1977年　東京大学, 理科II類
1955年　神奈川県生まれ

# 主な学会活動

- 日本世論調査協会
- 世界世論調査協会(The World Association for Public Opinion Research)
- 社会調査協会

- 日本行動計量学会
- 日本分類学会
- 日本心理学会
- 数理社会学会
- 日本社会関係学会

- ISI (International Institution of Statistics)

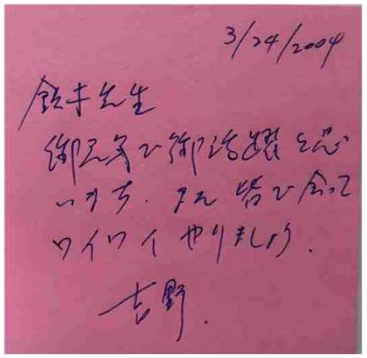
# 主な受賞歴

- 2015/09 - 一般社団法人 計画行政学会 日本計画行政会・論説賞 特集号論説「『幸福度』は政策科学のために計測可能か?」
- 2011/09 - 日本行動計量学会 日本行動計量学会・功績賞(林知己夫賞) 行動計量学への貢献
- 1992 - 日本行動計量学会 日本行動計量学会優秀賞(林知己夫賞)受賞

- 1988/06 - カリフォルニア大学アーヴァイン校社会科学科 第3回 最優秀論文賞 The possible and stable psycho-physical laws
- 1986/06 - カリフォルニア大学アーヴァイン校社会科学科 第1回 最優秀論文賞 The generalization of Young-Householder Theorem

# 主な著書

- ソーシャル・キャピタルの世界．ミネルヴァ書房 2016
- 「信頼感の国際比較研究」中央大学出版 2014
- 国際比較データの解析 ：意識調査の実践と活用．朝倉書店 2010
- 東アジア国民性比較 データの科学．勉誠出版 2008
- 数理心理学: 心理表現の論理と実際．培風館．2007
- 国民性論 精神社会的展望(翻訳)出光書店 2003
- データの科学シリーズ「心を測る」- 個と集団の意識の科学 -朝倉書店 2001



# 主な論文

- 世論調査・社会調査の未回収バイアスの探求 ー 公募モニター型WEB調査の実態について. 行動計量学. 2024.
- 未回収層のプロファイリング --「信頼感」で読み解く世論調査の標本バイアス---. 行動計量学. 2022.
- 「日本人の国民性」調査と「意識の国際比較」---「統計数理」から「データの科学」へ---. 統計数理. 2021.
- 調査方法の比較の研究. 日本世論調査協会報. 2018.
- 意識の国際比較可能性の追及のための「文化多様体解析」. 統計数理. 2016.
- 「幸福度」は政策科学のために測定可能か?. 計画行政. 2014.
- 世論調査と意識調査の方法の標本抽出法の原点-「ユニヴァース、母集団、標本」再考. 統計. 2012.
- 数量化理論と社会調査、そしてそれから. 社会と調査. 2012.
- 世論調査の歴史と理論と実践--データの科学の真髄. データ分析の理論と応用. 2011.
- 継続調査の課題と将来. 社会と調査. 2008.
- 「科学的」世論調査の価値-歴史と理論と実践の三位一体-.日本統計学会誌.日本統計学会誌. 2008.
- いま世論調査が直面する壁 ：「歴史」と「理論」と「実践」.「よろん」. 2006.
- 富国信頼の時代へ-東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析-. 行動計量学. 2005.
- 信の崩壊 ：世論調査方法論の今日の課題. 行動計量学. 2002.
- 国際比較調査法の開発という側面からの統計科学. 日本統計学会誌. 2000.
- 国民性の国際比較調査の為の質問文の作成:-翻訳のプロセスを中心として-. 行動計量学. 1995.
- 精神物理学的法則の安定性の程度について. Behaviormetrika. 1989.
- 公理的測定論の歴史と展望. 心理学評論. 1989.
- BatchelderとRomneyの正答のないテスト理論」の拡張とアンケート調査法への応用. 統計数理.1989.

# 吉野諒三 「私の３冊」 in「社会と調査」No.19 （2017）

「何を専攻するかよりも，誰に師事するかが大切だ」（Inkelesとの会食中、孫に）

1. 『ガロアの生涯――神々の愛めでし人』レオポルト・インフェルト著　市井三郎訳、日本評論社 1969

   16歳の誕生日に兄が買ってきた。その後の純粋数学の独学の出発点となった。印東太郎先生に拾ってもらったが、

2. Abstract Measurement.  Louis Narens 著. The MIT Press 1985

   数理心理学の哲学を学ぶ。Narens教授から，半分冗談で，出席しているだけで単位をあげるから登録してくれ。執筆中のAbstract Measurementの数学的内容を含め校正。「科学的測定理論」の数学的，哲学的基礎，その後の研究の基盤に。

3. 『調査の科学』 林知己夫著、講談社 1984（書影は復刻版。筑摩書房 2011［吉野の解説つき］）

   林先生の広範囲に亘る仕事を「統計数理」「数量化」「調査の科学」「データの科学」という統計哲学とともに勉強してきた。数理科学のように論文や書籍に著されたことですべてが評価されることもあろう。しかし人文社会学の分野では，実は，本当に大切なことは著し難く，研究途上で，体得し後進に伝えるべき経験知のようなものがある。その意味でも，Alex Inkelesから孫へのアドバイスは正しい。

# ちなみに･･･林知己夫の「私の３冊」

1. 本居宣長『うひ山ふみ』岩波文庫
2. 『末綱恕一著作集（全３巻）』南窓社
3. マイケル･デントン（川島誠一訳）『友進化論』どうぶつ社

（放送大学通信 On Air、15号、1989）

林氏の「３冊」は、吉野先生のような「人生の反映」というよりも、「立場の反映」といえるだろう。私は「うひ山ふみ」に注目した。吉野先生への影響と関係しているところがあると同時に、林氏の考え方の背景が実によく理解できた。日本の知識人、知的構造の本質的問題でもある。この件は機会があれば適当な雑誌に書こうと思う。

※　林の手書き原稿は癖が強くて、別の字に見えるという読み間違いが多い。「友進化論」は誤植で「反進化論」だが、自筆原稿は友と読めたのであろう。他文献にもこの種の誤植がいくつかある。

# 執筆中だった英文書籍

Scientific Public Opinion Polling in Japan - Its History, Theory & Practice

- 日本における科学的世論調査の歴史、理論、実践
- 実践的サンプリング手法の確立：日本人の読み書き能力調査
- 国立世論調査所、民間（報道機関）の世論調査
- GHQ（CIE)のPOSR：占領時代（1945-1952）
- 電話調査（RDD）
- 個人情報保護法と調査環境への影響
- 関連資料

# 水野坦、標本設計に関する貢献

*The Survey Statistician*, 2023, Vol. 88, 51–57.

**Survey Sampling History at Iowa State University**

**Jae Kwang Kim**
Iowa State University, USA, jkim@iastate.edu

"the seminal paper of Horvitz and Thompson(1952) was published when the authors were graduate students at ISU and they were influenced by the lectures from Mizuno who visited from Japan."

Kim,J. K. (2023). Survey Sampling History at Iowa State University. The Survey Statistician, vol 88, 51-57.

1950年に松宮、磯野らと100日ほど米国視察旅行

**A Generalization of Sampling Without Replacement From a Finite Universe**

This paper presents a general technique for the treatment of samples drawn without replacement from finite universes when unequal selection probabilities are used. Two sampling schemes are discussed in connection with the problem of determining optimum selection probabilities according to the information available in a supplementary variable. Admittedly, these two schemes have limited application. They should prove useful, however, for the first stage of sampling with multi-stage designs, since both permit unbiased estimation of the sampling variance without resorting to additional assumptions.

# Horvitz-Thompson(HT) 推定量　非復元抽出の場合

- 推定量（*estimator*）とは計算式、推定値（*estimate*）とは抽出した標本から計算した実現値

$$\hat{\tau} = \sum \frac{y_i}{\pi_i}$$

- 非復元・単純無作為抽出標本の各要素の包含確率は、$\pi_i = \frac{n}{N}$ なので、

$$\hat{\tau} = \sum \frac{y_i}{n/N} = N \times \frac{1}{n} \sum y_i = N \times \bar{y}$$

標本平均に母集団規模を乗じる

# 日本世論調査協会　歴代会長　（74年間）

1. 1950年　戸田貞三 ／68歳　（ 5 ）
2. 1955年　小山栄三 ／56歳　（ 28 ）
3. 1985年　林知己夫 ／67歳　（ 14 ）
4. 1999年　中西尚道 ／69歳　（ 6 ）
5. 2005年　柳井道夫 ／71歳　（ 17 ）
6. 2022年　吉野諒三 ／67歳　（ 2 ）

- 就任時年齢の平均　66歳
- 在任期間年の平均　12年間

## 「最初のことば」と「最後のことば」

机上で開発された理論を何かに応用できないかと考えるような態度では、現実社会への貢献は多とはならず、また年齢とともに衰えてしまうであろう。しかし、現実に直面する緊急な課題解決に迫られるという緊張感から生まれた成果は、増々、その実りを膨らませて行くばかりであり、衰えを知らないようであった。

林先生は、臨終の床においても、なおかつ研究の進展を止めることはなかった。次々と病床を見舞う弟子たちに声をかけ、今後の活躍を激励していらっしゃった。私には、無言で、じっと見つめられ握手を交わしただけだった。しかし、その「最期のことば」が語るものは大きかった。

「行動計量学」2003年30巻2号 p.175-177　林知己夫先生追悼特集号(―21世紀の行動計量学のために―)

# 主な追悼文

- 「よろん」134号（2024）

  鈴木督久「吉野諒三先生を悼む」

- 「日本行動計量学会 会報」183号（2024）

  角田弘子「吉野諒三先生とカリフォルニアの青い空」

  林　文　　「吉野諒三さんを偲ぶ」

  前田忠彦「吉野諒三さんを悼む」

  鄭　躍軍「吉野諒三先生を偲ぶ」

  山岡和枝「吉野諒三さんを偲んで」

  袰岩　晶「吉野先生の思い出」

  藤田泰昌「果たせぬ恩返し」

  松本　渉「吉野先生を追悼する」